

「宇治市のまちづくり大学生会議」を開催しました



現在開講中のプロジェクト科目「KBUプレジデント・セミナー」(担当教員:木田竜太郎地域協働研究教育センター専任研究員)では、京都府山城広域振興局の寄付講座として、京都府南部地域で活躍の各界トップを講師に招聘したセミナー(全5回)を授業の一環として開催しています。

5月28日(土)、第2回セミナーでは、講師に宇治市の山本正市長をお招きし、全5回の共通テーマ「二十歳のころ～いかにして私となったか～」についてお話し頂くとともに、本学学生と山本市長で「宇治の魅力発信」をテーマに意見交換する「宇治市のまちづくり大学生会議」を行いました。

「宇治市のまちづくり大学生会議」では、進行役の学生と、本学の地域連携学生プロジェクトや、地域と連携して活動を行うサークルから12名が参加しました。

プロジェクトやサークル活動を通して宇治の魅力発信を実践している学生からの具体的な意見・要望を元に、活発な意見交換が行われました。山本市長からは「地域の現場で実践している学生の意見は説得力がある」との総括コメントもいただきました。当日は、大学生会議に参加した学生以外にも多数の学生が聴講したほか、一般の方々にもご参加いただき、セミナーは盛会のうちに終了しました。

お知らせ

京都文教大学開学20周年記念事業

ともいき(共生)フェスティバル 2016  
～開学20周年『ありがとう』～

● 日時：2016年12月10日(土) 10:00～16:00

● 会場：京都文教大学 サロン・ド・パドマ、グラウンド 他

子どもからご年配の方、障がい当事者や留学生など、様々な人が集い、交流できる地域のみなさんを対象とした大学開放イベント!今年度も様々なステージやブースを準備しています。

- (1) 学長ともいきトーク (2) ともいき文化祭ステージ (3) ともいき講座 (4) ともいきスポーツ&教室
- (5) ともいきブース(a.ミニ講座・トークセッション/b.ワークショップ・体験コーナー/c.展示/d.模擬店/e.物販/f.ステージ/g.その他)
- (6) ともいまちづくりミーティング

出展者 大募集! ※出展無料

ワークショップ、展示、模擬店、物販、ステージ...このイベントでは、地域のみなさんが日頃から取組まれていることや、得意なことを持ち寄り、発表や販売を行う「ともいきブース」の出展者を募集しています。

【募集ブース数】全20ブース程度(出展無料)

【募集内容】 a.ミニ講座・トークセッション  
b.ワークショップ・体験コーナー c.展示  
d.模擬店 e.物販 f.ステージ g.その他

【募集締切】9月16日(金)

※出展を希望される方は、必ず事前にお問合せ下さい。

※b～eの基本的なスペースは、1ブース当たり約1.5m×約1.5m(長机1つ×2個)です。



(2) ともいき文化祭ステージ



(3) ともいき講座



(4) ともいきスポーツ教室



(5) ともいきブース

※2015年度のように

● 主催：京都文教大学 地域協働研究教育センター ● 申込み・問合せ：京都文教大学フィールドリサーチオフィス

京都文教大学 地域協働研究教育センター

ともいき vol.7  
ニュースレター TOMOIKI 2016年7月発行

「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス」でのさまざまな活動をお伝えします。



平成28年度 地域志向教育研究 ともいき研究助成事業(住民参画型/産官学協働型)  
平成28年度 地域志向協働研究 共同研究プロジェクト

地域を志向した研究を推進! 地域とともに「協働研究」に取り組めます。

地域における本学の教育、研究、社会貢献活動を一体化し、その成果を本学の教育活動や地域の発展に還元、寄与することを目的に、2014年度から新たに「地域志向協働研究」「地域志向教育研究 ともいき研究助成事業」を学内・学外から募集し、今年度は計20の共同研究プロジェクトが採択されました。「地域志向教育研究 ともいき研究助成事業」では、自治体職員、団体・企業、地域住民が研究員として参画する「住民参画型」ならびに「産官学協働型」の共同研究を募集し、地域課題に取り組んでいます。「地域志向協働研究」も研究分担者として、学外から客員研究員を招聘することができ、地域との「協働研究」を推進していきます。  
今年度採択された研究について、研究概要と、共に研究に携わる研究分担者や協力者の地域のパートナーのみなさんをご紹介します。

プロジェクト1  
ともいき研究・住民参画型

中宇治、西宇治地域の商店街の抱える個別課題の明確化

研究代表者：東 正志 (総合社会学部総合社会学科 講師)

本プロジェクトでは、これまで中宇治の三商店街が抱える課題の抽出に当てて活動を行ってきました。その成果の一部として、お茶街巡り協議会が発足し、三商店街が恒常的に連携を行い、「共通課題」を共有し、解決への方策を検討し続ける体制ができました。今年度は、三商店街の「個別課題」の抽出を行うことが、第一の目的です。もう一つの本プロジェクトの目的は、連携する対象地域を「西宇治」にまで拡大し、宇治市全体を貫く共通課題や、地理的に拡散した商店街間の連携のあり方を模索していくことです。

宮川 義広さん(宇治小倉篤志の会 会長)



地域パートナー  
小倉周辺は「西宇治」と呼ばれ、これまであまり注目されてきませんでした。「西宇治」の魅力伝えるには、単独で発信していくよりも、「中宇治」地域との連携を通じて魅力を発信するという手もあるのではと、常々考えていました。今回このプロジェクトに参加することで、まずは他地域の方々や有識者との人的交流を深め、「西宇治」の魅力発信につながる糸口をつかんでいきたいです。

学内研究員 4名  
学外研究員 4名

プロジェクト2  
ともいき研究・住民参画型

宇治川周辺地域における防災・減災活動

研究代表者：澤 達大 (総合社会学部総合社会学科 准教授)

本学周辺は、かつて巨椋池があった低地帯のため、水害が発生する可能性が高い地域です。近年、予測不可能な集中豪雨が頻発する状況下では、日頃の備えは非常に重要です。また、4月に熊本で大地震が発生しましたが、京都南部でも数百年に1度の大規模地震に備える必要があります。昨年度は、高齢化社会における災害対策や災害発生時のコミュニティ形成等の研究を行い、情報を発信しました。今年度は、宇治市危機管理課とも連携をとり、防災・減災のための積極的避難のあり方を中心に、住民の防災意識を高める取組みを進めていきます。

奈佐 廣海さん(北小倉地区民生委員児童委員協議会 会長)



地域パートナー  
北小倉地区民生委員児童委員協議会では、災害時に備えた要援護者を見守るための活動で、これまで一定の成果を上げることができました。しかし、現実に災害に見舞われた地域では、災害が来るとは頭ではわかっていても、実際に行動に移してないことが往々にしてあります。それらの意識改革について、大学のみならず、特に学生の若くて柔軟な発想を受けながら進めていきたいと考えています。

学内研究員 1名  
学外研究員 6名

プロジェクト3  
ともいき研究・住民参画型

グローバル化時代における地域の国際協力のあり方を探る

研究代表者：松田 凡 (総合社会学部総合社会学科 教授)

昨年度は、京都南部地域(特に宇治市、京都市伏見区、城陽市)において、まず市民、行政、大学が行っている国際協力・交流活動の情報交換ができるネットワークをつくり、同時に草の根レベルの活動の調査を行いました。今年度は、各地で実施されている在留外国人のための日本語教室の現状と課題を調査し、その対策を考えることを中心に活動します。また、それと関連して、本学学生と留学生、在留外国人が交流できる場の創出に協力していくことも計画しています。

大下 宗幸さん((公財)京都市ユースサービス協会)



地域パートナー  
地域にはこどもから若者、シニアまで多様な人が住んでいます。そして、そこには日本人ばかりでなく外国にルーツを持つ方もたくさんいます。外国人がお客様だけの社会ではなく、国籍や人種を問わず、また、障がいの有無や年齢をも越えて、お互いの(文化的な)違いを認め合い、フラットな関係を築き、みんながハッピーな社会の実現に寄与できる、そのような協働研究でありたいと思います。

学内研究員 4名  
学外研究員 4名

プロジェクト4  
ともいき研究・住民参画型

障がい児を持つ保護者や親子関係を、地域で支援することに  
関する研究

研究代表者：柴田 長生 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

「放課後等デイサービスだいち」を中心に、地域の中で、障がい児の生育支援や親子関係の支援に従事されている各般と提携し、支援をめぐる課題の明確化と、それに対応できる方法論の学習・検討などを、地域支援の視点から研究します。共同研究者との準備ミーティング、課題を有する地域の複数施設の従事者への研究参加の呼びかけ、支援現場における問題・課題・ニーズの収集と整理、共通認識された問題・課題・ニーズに関する学習並びにワークショップの開催などを一年かけて行います。

緒方 秀樹さん(放課後等デイサービス だいち)



地域パートナー  
放課後等デイサービスは、創設期から年々増え続ける事業所と共に、利用者の数も増え、それに伴い様々な利用者の生活環境が伺いしれる事となりました。その中で不幸な生活環境下で育つ利用者がいます。仕事、育児疲れによる保護者からの虐待・ネグレクト。表面化しづらく表面化した時には事件、事故となってしまうケースがあり、これらを未然に防ぐ方法論、環境づくりを確立できればと思っています。

学内研究員 2名  
学外研究員 2名

プロジェクト5  
ともいき研究・住民参画型

まきしま絆の会、宇治市、京都文教大学が紡ぐ地域連携の創造  
—地域と結びつく親と子の絆づくり、子どもへの学習支援—

研究代表者：寺田 博幸 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

一般社団法人マキシマネットワーク、NPO法人まきしま絆の会、宇治市と本学が連携し、地域を志向した教育研究を行っています。放課後の子どもに安全・安心な居場所を提供し、学生による学習支援や紙芝居、読み聞かせ、手作り工作、算数遊び、科学体験などの取組を実施しています。現在、参加される保護者の声の広がりをみせ、提供場所のコミュニティカフェ「Reos横島」では、子どもの元気な声が響き渡っています。本取組を継続発展させ、保護者同士のつながりを一層促進し親子の絆づくりに貢献することを目指しています。

榎田 尚美さん(Reos横島)



地域パートナー  
「Reos横島」は、人と人とが繋がる地域の居場所として、本研究に参加しています。開始当初数名だった参加者も、今では学生さんの一生懸命な指導が口コミで広がり、横島地区以外の方も参加されるようになり賑わいを見せています。これからも、このような活動が広がり、多くの親子さんの集う場所になることを願い、私自身も子どもたちにパワーをもらいながら、一緒に楽しみ地域を元気にしていきたいです。

学内研究員 5名  
学外研究員 4名

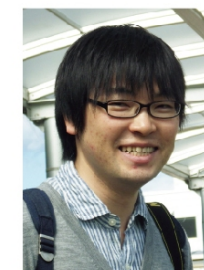
プロジェクト6  
ともいき研究・住民参画型

記者体験活動をととして、地域を発掘し自分たちの住むまちを  
誇りに

研究代表者：橋本 祥夫 (臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授)

京都府南部地域は、今後急速な人口変動が予想され高齢化が進み、地域のアイデンティティや地元愛が育たないだけでなく、新しい地域の担い手を育成することが困難となっています。この課題を改善するため、記者体験活動を手法とし、地域の眠っている情報を発掘し、子ども達の目線で発信することで、子ども達自身が自分たちの住む「まち」に対する愛着や思い入れなど心境の変化をおこさせることを目的とします。地元紙である『洛南タイムス』の協力を得て、小学校高学年から高校生までを対象とした「子ども記者」が取材した記事を紙面に年間通じて掲載します。

本好 治央さん(洛南タイムス 記者)



地域パートナー  
子ども記者の活動を通じて驚くのは、取材に答えていただけの地域の方々の反応です。自分たちの活動や仕事かどのような意義を持つのか、子どもたちに熱心に説明して下さる姿勢に、改めてまちの魅力を感じます。そこには本職の記者でも見落としがちな、ニュースの原石がたくさん転がっています。子どもたちにはそれを探すおもしろさを体感し、「ふるさと」の良さを認識してほしいです。

学内研究員 3名  
学外研究員 3名

プロジェクト7  
ともいき研究・産官学協働型

宇治市内の伝統的の家屋の保存・活用に関する可能性研究

研究代表者：小林 大祐 (総合社会学部総合社会学科 講師)

宇治橋周辺の中宇治地域には、約400棟の伝統的の家屋が残っていますが、年々減少し、空き家となっているものも少なくありません。宇治のまちなみを魅力的なものにしてゆくには伝統的の家屋の活用・継承が重要になってきています。本研究では2015年度にゲストハウス(民泊施設)の法的課題を検証しましたが、本年度は住宅や店舗、宿泊施設などの活用事例の調査や伝統的の家屋を活用するビジネスモデルの検討を行います。また、地域遺産の認定制度の構築に向けた研究を行い、市民が誇りに思える宇治のまちなみを次代につなげる方策を考えます。

平野 正人さん(宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課)



地域パートナー  
中宇治地区には平等院と宇治上神社の2つの世界遺産があり、多くの外国人観光客が訪れていますが、回遊しなくなる魅力的な歴史的風致を維持・向上して行かなくてはなりません。2015年の「民泊特区」がより具体的な基準を制定しようとする中、宇治においても民泊施設が増加し、その実態をつかむ必要があります。また、歴史的な家屋の活用についてビジネスモデルを示し、歴史的風致を高める施策を検討します。

学内研究員 3名  
学外研究員 4名

プロジェクト8  
ともいき研究・産官学協働型

### 宇治市内における文化政策のあり方に関する研究

研究代表者：滋野 浩毅 (地域協働研究教育センター 専任研究員)

昨年度は、「地域公共政策総合演習」受講の学生たちも加わり、宇治市の文化イベントについて調査研究を行った結果、各イベントが宇治の魅力づくりやアイデンティティの確立にもつながっている一方で、その享受者や担い手に偏りがあることを明らかにしました。今年度は、その研究結果をより深く、精緻化し、残された課題にも取り組む中で、従来の自治体による文化行政を官民協働で相互補完し、豊かな社会の実現に資する、より総合的な文化政策のあり方に向けた提案と、その実現に向けた道筋を、研究成果として提示したいと考えております。

市川 智也さん (宇治市市民環境部文化自治振興課)

地域パートナー



昨年度は宇治市の文化発信イベントの手法を研究し、どのような文化政策があれば老若男女問わず、広く市民に文化を普及できるかという課題が残りました。今年度は「宇治市における文化政策のあり方」をテーマに、これまでの研究成果をふまえながら実地調査等も含め、他の共同研究者の方々より良い方法を模索し、課題を整理していきたいと考えております。

学内研究員  
1名  
学外研究員  
7名

プロジェクト9  
ともいき研究・産官学協働型

### 京都府南部地域中小企業のCSRに関する研究

研究代表者：島本 晴一郎 (総合社会学部総合社会学科 教授)

地域に住んでいる人々や働いている人々が、その地域に属することで幸せをより強く実感するためには、都市インフラの整備も必要ですが、それ以上に相互の絆や温かさといったソフト面での補強が必要です。本プロジェクトは、広野大久保地域の中小企業や事業所が地元住民や学生とも連携しながら、この地域で何が出来るのか、どうすればこの地域において、より幸せ感を醸成することができるか、それらの可能性について実践的に学ぶことを目的とします。

谷 直忠さん ((株)平和堂 平和堂100BAN店 店次長)

地域パートナー



平和堂は、地域社会との関係を大切にすることが社風としてあり、社員が地域のボランティア活動などにも積極的に参加する、といったことが社内でも共通認識としてあります。この研究においても、地域の企業や事業所さんの取り組みについて情報交換する中で、それぞれの企業が参考となる事例を学びあえることに期待をしています。もちろん、店としてもできるだけ協力させていただきたいと考えています。

学内研究員  
2名  
学外研究員  
6名

プロジェクト10  
ともいき研究・産官学協働型

### 地域コミュニティ活性化推進のための制度改革にむけた方策の検討

研究代表者：森 正美 (総合社会学部総合社会学科 教授)

本研究においては、ますます重要になるコミュニティの役割を活性化させるため、過去2年にわたり、宇治市内のコミュニティの実情と課題、他地域でのコミュニティ活性化施策などについて研究を重ねてきました。今年度は、市内で実施している地域課題情報交換会から出てきた具体的提案の試行、地域コミュニティの連携体制についての検討、活動拠点や人員体制についての課題抽出、地域コーディネーターの設置あるいは養成講座の開設案の作成、地域の実態に即した施策を検討するため地域の多様性の分析などを実施し、施策提案をまとめます。

尾崎 博子さん (宇治市市民環境部文化自治振興課)

地域パートナー



地域住民の交流と連帯による地域コミュニティは、地域主体のまちづくりを推進するために、極めて重要な役割を担っていると考えられます。近年、地域コミュニティ基盤の脆弱化や地域課題の多様性等が見られる中、本研究では、これまでの研究と先進地施策や現状の更なる分析を踏まえながら、地域の実態に即した施策の検討及び実施を進めることで、地域コミュニティの活性化に繋がることを期待しています。

学内研究員  
1名  
学外研究員  
5名

プロジェクト11  
ともいき研究・産官学協働型

### 宇治市における愛着形成に資する政策の企画・立案のための研究

研究代表者：山本 真一 (総合社会学部総合社会学科 准教授)

2013年度より宇治市において取り組みを進めている魅力発信事業に関して、政策提言を目的として本研究を実施しています。昨年度の研究では、愛着の形成に影響を与える要因として地域ブランドに着目し、地域ブランドの確立が愛着度向上にむすびつくプロセスを分析しました。その結果、物理的環境と社会的環境が重要な役割を果たしていることを仮説として導きました。今年度は、愛着形成に影響を与える要因を測定・評価し、上記の仮説を検証することとしています。さらに市民の地元愛着度に資する政策を企画・立案し、宇治市に提言する予定です。

本間 雅人さん (宇治市政策経営部政策推進課)

地域パートナー



宇治へ愛着を持つ人々を増やし、宇治市の交流・定住人口の増加に繋げていくことを目的にこれまで研究を実施しており、今回の研究では、豊かな自然と歴史・文化に育まれた魅力、地域住民が生き生きと安心して暮らすことができる魅力など、愛着形成の要因が客観的データとして明らかになることを期待しています。その内容を踏まえ、どのような政策・施策が有効なのか検討していきたいと考えています。

学内研究員  
1名  
学外研究員  
1名

プロジェクト12  
ともいき研究・産官学協働型

### 宇治市認知症アクションアライアンスに関する当事者研究 —「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けて—

研究代表者：平尾 和之 (臨床心理学部臨床心理学科 准教授)

高齢者の5人に1人が認知症を患う時代を迎えるにあたって、認知症と共に生きていく社会の実現が課題となっています。宇治市は全国に先駆けてこの地域課題に取り組み、2015年に「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現することを宣言しました。2016年3月より始動した宇治市認知症アクションアライアンスでは、認知症の日本人やご家族の体験にもとづいたニーズや支援評価をいかに施策に反映していくかがテーマになっています。本研究では、宇治市および洛南病院と協働し、認知症当事者の声を聴き取る方法論の確立を目指します。

森 俊夫さん (京都府立洛南病院 副院長)

地域パートナー



研究を通して大学が「認知症の新しい交流拠点」へと飛翔することに期待しています。来年3月には宇治市認知症アクションアライアンス始動一年後の評価に注目が集まりますが、大学の変化が他の参加団体のエネルギーとイメージを喚起します。当事者評価の方法論の確立は、京都認知症総合対策推進計画本人評価、2017年国際アルツハイマー病協会国際会議にも大きな影響を与えるでしょう。

学内研究員  
1名  
学外研究員  
2名

プロジェクト13  
ともいき研究・産官学協働型

### 京都府南部地域におけるトップ・キーパーソンのネットワーク形成と地域志向のキャリア支援教育の在り方に関する研究

研究代表者：木田 竜太郎 (地域協働研究教育センター 専任研究員)

本研究は、京都府南部地域における若年層の定住促進という課題に鑑み、2016年度開講のプロジェクト科目「KBUプレジデント・セミナー」と連動して、当該科目の寄付者・協働パートナーである京都府(山城広域振興局)との緊密な連携の下、当該地域におけるトップ・キーパーソン(地元企業の社長及び自治体の首長)間のネットワーク形成を通じた「地域志向のキャリア支援教育」の実現を目指して、大学卒業後に地元で就職し、地域産業を支える若者を増加させることによって、本学を含む当該地域全体の活性化に資することを目的としています。

小川 嘉幸さん (京都府企画(地域構想推進担当)付理事)

地域パートナー



京都府では、宇治茶生産の長い歴史が生み出した美しい景観が維持・保全・継承されている山城地域での人と資源のネットワーク化を進め、情報発信することにより、多くの人が地域の価値や魅力を感じることで大交流圏が形成されることをめざしています。このセミナーと研究を期に、地域資源を活用した企業と学生・大学、そして自治体の協働・連携事業が促進されることを期待しています。

学内研究員  
2名  
学外研究員  
4名

プロジェクト14  
ともいき研究・産官学協働型

### 精神障がい者の家族(ケアラー)への情報提供と支援に関する実践的研究

研究代表者：松田 美枝 (臨床心理学部教育福祉心理学科 講師)

宇治市を中心とする山城北圏域と伏見区には、精神科医療・福祉施設が多く、精神障がいを持つ本人とケアをする家族(ケアラー)が多く住んでいます。しかし、我が国の精神科医療は、本人の疾病へのアプローチが中心で、家族への支援は制度化されていないだけでなく、家族会の存在もあまり知られていません。本研究では、昨年度作成し、京都府全域に配布した、精神障がい者家族への情報提供パンフレットの効果を図りつつ、研究協力の了解を得られたケースの支援経過やインタビューなどから、必要とされる家族支援のあり方について検討を行います。

静 津由子さん ((公社)京家連 副会長)

地域パートナー



これまで十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会、それが誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会です。このような社会を目指すことが、積極的に取り組むべき重要な課題です。この研究が、地域福祉・障がい者支援等の充実に寄与し、「共生(ともいき)」の具現化に繋がることを期待します。

学内研究員  
1名  
学外研究員  
3名

プロジェクト15  
ともいき研究・産官学協働型

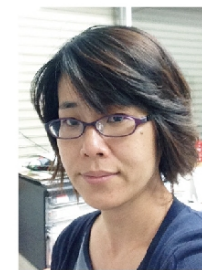
### 京都府南部地域における障がい者の就労支援に関わる研究

研究代表者：吉村 夕里 (臨床心理学部教育福祉心理学科 教授)

雇用における差別の禁止と合理的配慮の提供義務を定めた改正障がい者雇用促進法が施行され、様々な対策が必要となっています。本研究では障がい福祉関係者らと協働して障がい者の就労支援に関わる研究会を開催しています。また、援助職の養成教育に障がい者が参画する事業や、福祉施設と連携した学生への朝食サービス事業等を実施して、障がい者の社会参加や学生との交流促進を図っています。これらの取組は学生の障がい者への関わり行動の改善と、大学教育や研究に参画する「障がい者の働き方」の新しいモデルの構築を目指すものです。

竹内 美江子さん (NPO法人洛南福祉会 JACS 洛南共同作業所)

地域パートナー



この研究の成果として、京都文教大学での障がい者雇用が今年度よりはじまりました。当事業所の利用者さんが1名就職でき、今一生懸命働いています。またそういった機会があるのだということを知り、就労意欲を持つ利用者も増えていきます。障がいを持つ人が希望をもって仕事のできる場所がもっとも増えていくといいなと思っています。

学内研究員  
2名  
学外研究員  
9名

## 宇治・伏見地域の観光資源開発と地域振興

研究代表者：片山 明久（総合社会学部総合社会学科 准教授）

学内研究員  
6名

近年、宇治・伏見の観光は大きな注目を集めています。外国人観光客人気観光地ランキングでは伏見稲荷大社が2年連続で第1位に輝きました。また宇治では平等院の落慶以降も、ウミウのヒナの誕生や宇治を舞台にしたアニメ『響け！ユーフォニアム』によって多くの観光客が来訪しています。しかし両地区では、観光連携という点で効果的な施策は講じられておらず、各々の強みが相乗的に活かされていません。本研究では両地区の観光連携を推進するため、本年度に両地区を舞台としたマンガを作成し、それをういて周遊的に巡る観光の仕組み作りを試みる予定です。

多田 重光さん（(公社)宇治市観光協会 専務理事）

地域パートナー



現在宇治では、鶴飼で使用される鶴が卵を産み、日本ではじめて人工ふ化に成功したウミウのウッティの誕生や劇場版『響け！ユーフォニアム』のヒットという追い風を受け、沢山のお客様が来訪されています。しかし伏見稲荷大社を訪れる外国人観光客のうち宇治に来られる方は、まだまだ多くはありません。両地区を巡る観光の仕組み作りが、今まさに求められています。この研究会の取組みに期待しています。

## 京都南部・向島地域のニュータウンにおける大学・住民協働のまちづくり研究

研究代表者：杉本 星子（総合社会学部総合社会学科 教授）

学内研究員  
8名  
学外研究員  
3名

本研究は、少子高齢化や多文化化、社会格差の拡大といった現代日本社会が抱える諸課題が先鋭化して現れている向島ニュータウンのまちづくりについて、実践的・理論的研究を深めることを目指しています。本年度は、「京都文教マイタウン向島(MJ)」を中心に本学教職員学生と地域住民が協働で実施してきた一人暮らし高齢者昼食会、子どもの食育や居場所づくり、多文化共生企画や映画祭などの活動を継続するとともに、2016年3月に京都市が立ち上げた「向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会」に参画しながら、地域情報の発信にも取り組んでいます。

美留町 利朗さん（向島駅前まちづくり協議会 事務局長）

地域パートナー



今年は、京都市と住民が協働して、向島NT再生計画を検討する大切な年になりました。中心的課題は新しい小中一貫校の設置と統廃合跡地の活用ですが、NT全体の活性化の具体的な方針と予算化ができてこそというべきです。地域が崩壊していくのに豪華な校舎だけ建てても意味がありません。NT再生計画の検討と並行して、私達協議会と研究会の協働で住民主体の連続講演会を開催していきます。

## 官学連携による「宇治学」副読本作成と現場での活用に関する研究

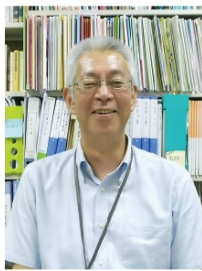
研究代表者：橋本 祥夫（臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授）

学内研究員  
5名  
学外研究員  
2名

京都文教大学と宇治市教育委員会との連携による共同研究も今年度で3年目を迎えました。来年度3年生と6年生に配布する「宇治学」副読本の準備とともに、他の学年の指導計画や副読本の内容の検討を京都文教大学の教員、宇治市教育委員会の指導主事、宇治市内の小中学校の先生とともに進めています。副読本の作成と並行して、研究協力校である宇治市立三戸小学校に「宇治学」の実践を積極的に推進してもらっています。「宇治学」が、宇治市内の小中学校の児童・生徒、教員、保護者や地域にとって魅力的な学習となるようにしていきたいです。

辻 弘一さん（宇治市教育委員会 一貫教育課）

地域パートナー



「地域社会の一員としての自覚を持ち、ふるさと宇治をよく知り、諸問題に目を向け、主体的、創造的、協同的に取り組むことで、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」が、本市における『「宇治学」の目標』です。宇治学副読本の作成が、児童生徒の探究的な学習の切り口となり、上記目標達成の一助となることを期待します。

## 子どもたちを豊かに育むまちづくりのための「こらぶれーしょん」プロジェクト

研究代表者：柴田 長生（臨床心理学部教育福祉心理学科 教授）

学内研究員  
5名  
学外研究員  
2名

年間を通して研究のパートナーである宇治福祉園が実施されている、地域の親子への「保育園開放事業」の中で、共同企画としての「ミニこらぶれーしょんセミナー」の連続実施が主なる取組みです。あそび・レクリエーション・子どもの育ちの評価などをテーマとする学生参加の企画として、本年度も学生による保育場面の写真撮影(子どもらしさ発見)に取り組めます。更に、本学で実施されている「遊び研究会」による「出前・遊び」企画や、プロジェクト科目「新米パパ・ママのお出かけ支援クラス」受講生の親子保育場面参加も予定しています。

杉本 一久さん（社会福祉法人 宇治福祉園 理事長）

地域パートナー



子どもを真ん中に一人一人が結ぶ「心の架け橋」。『こ(子)らぶ(愛)(り)れーしょん(絆)プロジェクト』は、今年度、より日常的な協働を深めていきます。例えば、学生の実習・ボランティア等からの学びを「こらぶれーしょんセミナー」として複数回実施、先生方も講師としてご登壇。一般・学生・教育・福祉関係者等どなたでも参加いただけます。一緒に豊かな未来を描きましょう。

## 対人援助のモラルの向上を目指した他職種相互乗り入れ型の研修プログラム開発に関する研究

研究代表者：吉村 夕里（臨床心理学部教育福祉心理学科 教授）

学内研究員  
4名  
学外研究員  
2名

障がい者や認知症高齢者等へのケアの課題を解決するためには、専門家と非専門家、職種間の壁を取り払った研修方法の工夫が必要です。本研究では学生や住民が参加できる多職種相互乗り入れ型の研修プログラムを実施することをとおして、利用者を中心においた多職種や住民との協働について学ぶことを目的とします。以上の取組は、援助専門職を目指す学生が就職した際に直面する学生から社会人への役割移行や、医療福祉現場の現実に直面することによって生じるリアリティショックを適切に乗り越えることにもつながると思われます。

桑原 陽さん（社会福祉法人新生会 社会福祉士）

地域パートナー



対人援助職として、自身の考え方や価値観、専門性の押し付けではなく、クライアントの全人的理解に努め、多職種それぞれの専門性、得意領域を理解し、役割と責任を分担しながら本人支援に努めていくことが大切です。本研究では多職種に留まらず、当事者、住民、学生等多様な立場の参加とディスカッションから学びを深めています。

## ◎ 宇治市高齢者アカデミー 2期生卒業研究発表会

### ～学びの成果を地域へ！～

6月22日(水)に宇治市高齢者アカデミー 2期生卒業研究発表会が行われました。宇治市高齢者アカデミーは、宇治市・京都文教大学・京都文教短期大学が連携し、宇治市民を対象に「地域志向生涯教育事業」として、平成25年9月より開講しています。アクティブシニアの養成や多世代交流を目的に、京都文教大学・京都文教短期大学の学生とともに授業を履修し(週1回)、またアカデミーアワー(月1回・ゼミ活動)を行い地域課題の解決策について学んでいます。

アカデミー2期生(平均年齢:76.2歳)は、これまでの2年間の学びを、地域文化や歴史、高齢者福祉等のテーマとし、個人やグループで発表しました。この日に向けて、アカデミー2期生担任の安田ひろみ総合社会学部准教授の指導のもと、念入りにリハーサルを重ね、準備をしてきました。当日は、1発表につき、15分が持ち時間です。これまでの経験や調査結果をまとめ、発表内容はとても濃く、あっという間に時間が過ぎました。最後に山本正宇治市長、平岡聡学長、安本義正学長に講評いただきました。



### 歴史は勝者のもの～宇治陵を通じての格言～

発表者の暮らす宇治市木幡には、平安時代に栄華を極めた藤原一族の墓「宇治陵」があります。身近に点在する「宇治陵」と平安時代を代表する女流作家清少納言と紫式部を通して、あまり知られていない宇治の歴史を調べ、観光にも活用できないかと提案されました。

### 特殊詐欺の現状と傾向対策

高齢者をターゲットにした特殊詐欺が増加しています。複雑化してきている詐欺の種類や手口を紹介すると共に、「自分だけは大丈夫」という高齢者独特の過剰な自信についても、注意を促しました。家族構造の変化に伴い、独居老人が増えるなかで、地域での連帯意識の強化、安全・安信の確保に向けた取組が求められます。

### 宇治の茶だんご達

このグループが観光について考えた時に、頭に浮かんだのはお土産のことでした。宇治名物「茶団子」は宇治の盛り立て役にできるのか?をテーマに研究に取り組みました。茶団子の歴史を読み解き、食べ比べを行い、「茶団子でギネス世界記録に挑戦!」というイベントへの参加、お茶処静岡との比較等を行いました。豊富な資料と写真で、楽しく発表しました。

### 検察審査会とは～検察審査会制度の考察～

検察審査員の体験を持つご本人による発表でした。検察審査会制度の仕組みやその役割を分かりやすい図や絵を用いて紹介しました。検察審査員の経験者の多くが非常にやり甲斐を感じた一方、まだまだ国民に周知されていない現状もあり、今回の発表を通して、制度への周知と理解を望まれていました。

### 高齢者が暮らしやすいまちづくり

交通問題や高齢者の生きがいなど、宇治市で高齢者が生活していく上での問題点を挙げ、研究メンバー3人で分担して検討しました。高齢運転者による事故を防ぐためには、車がなくても暮らせるまちづくりが必要です。発表を通して、自転車専用レーンの施工やデマンドタクシーの実施を提案しました。

